

# 1学年「薬物乱用防止講座」

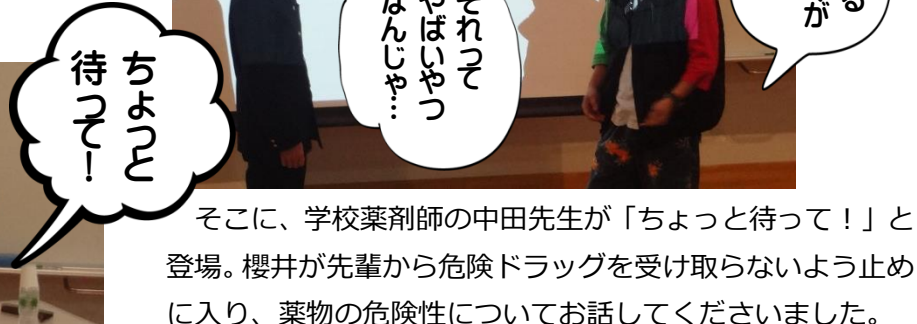
平成 28 年 11 月 30 日 (水)



1 学年を対象に、学校薬剤師・釜石警察署と連携した、「薬物乱用防止講座」を実施しました。この講座は、岩手県各関係機関が発足した「薬物乱用防止啓発連携 DARP プロジェクト (Drug Abuse Resistance Promotion)」を参考としたものであり、実際にあり得そうな場面を想定したロールプレイングの中で、薬物の専門家である薬剤師と、防犯の専門家である警察官から専門性に特化した貴重なお話を聞くことができました。また、1 学年の生徒と先生の熱演により、全員が「もし自分だったらどうしよう…」と自分に置き換えて、熱心に講座を受けていました。

## ロールプレイング1 「先輩から誘われて…」

部活の帰り道、卒業した先輩から「疲れがとれる“すごいアロマ”がある。」と危険ドラッグを勧められてしまった櫻井ですが…。



そこに、学校薬剤師の中田先生が「ちょっと待って!」と登場。櫻井が先輩から危険ドラッグを受け取らないよう止めに入り、薬物の危険性についてお話してくださいました。

### 薬物の専門家 学校薬剤師 中田義仁先生【釜高生に知ってもらいたい薬物の危険】

#### ① 市販薬も使い方を間違えれば薬物乱用に!!

薬物乱用は、法律で禁じられているものを使用することだけでない。市販薬を用法・用量などの使用方法を守らずに服用することも薬物乱用になってしまう。普段使い慣れている薬でも、でたらめな使い方をすると副作用が現れて危険な場合がある。

#### ② わたしたちは薬物から自分の脳を守ることができない!!

乱用される薬物には「依存性」があり、「1 度だけ…」と思って利用した人を泥沼に引きずり込んでしまう。そして、1 度薬物が体に入り込んでしまうと、防御することができず、大切な脳に深刻なダメージを与え、心身に恐ろしい影響を及ぼしてしまう。その害はたとえ薬物をやめても一生治らない。

#### ③ 薬物乱用の入り口は、酒・たばこ!!

酒・たばこは法律で禁止されているのは未成年だけだが、実際にゲートウェイ・ドラッグと呼ばれている。酒・たばこを利用することから、判断力が鈍ったり、誘惑されやすい環境に入ってしまうなど、意外なところに危険という名の落とし穴があるのだ。

## ロールプレイング2 「友達も使っているから…」

仲よし 3 人組の敦子・莉乃・優子。  
ある日、3 人のグループラインで「彼氏とのクリスマスデートのために痩せたい」と言った莉乃の一言を聞き、優子が 2 人に「痩せるサプリ」があると勧めてきて…。



そこに、釜石警察署の鎌田先生が「ピピピーッ」と笛を鳴らしながら登場。

現場で働いているからこそその、リアルな話をしてくださいました。

### 防犯の専門家 釜石警察署 鎌田秀寿先生【実は身近に迫る薬物の恐ろしさ】

#### ① 芸能人だけの話ではない! もしかしたら薬物乱用者となれ違っている可能性も!!

自分には関係ない、そう思う人もいるだろうが、絶対に無関係な話ではない。実際、全国各地で同年代の青少年による薬物乱用件数も多く、手段として使われるのがネットや SNS である。また、釜石でも薬物が原因で逮捕された人もおり、身近なところに魔の手が迫ってきている。

#### ② たった一度手を染めただけで、社会復帰が難しい!!

薬物乱用で捕まり、名前や住所などが公表されたら、今の時代、すぐにネットに上がり、拡散されてしまう。そうなってしまったらはどうがんばってもネット上から自分の名前が消えることはなく、「薬物乱用者」という肩書きを一生背負わなければならない。

#### ③ 薬物乱用の行く末は、刑務所・病院・墓場のみ!!

中田先生の説明にあったように、薬物をやめることは非常に難しい。症状が出なくなると安心して、何十年後にふいに症状が再発することもある。異常な精神状態から事件を起こしてしまうこともあるし、命を落とすことだってある。

## ロールプレイング3 「勉強がうまくいなくて…」

なかなか上がらない成績に、不安や焦りを感じ、体調を崩してしまったけんじ。そこに、同級生の北山と、その先輩の近藤から「すっきりして勉強がはかどる解熱剤がある」と誘われて…



ここでは、薬物にさそわれたときにどのように断るべきかを考えました。人間関係を気にしてしまって、どうしても断りづらい場面でも、はっきりと「自分は薬物になんて手を出さない!」という強い意志と勇気を持っていなくてはなりません。薬物はダメ! 絶対!

出演者の皆さん、素晴らしい演技をありがとうございました。